

資源工学部会会員の資格取得体験記

投稿者	選択科目	入会年	受験で苦労したこと・工夫	論文作成や面接試験での対策	付記事項
堀川 達智	流体資源の開発及び生産	2017年	残業の続く職場環境の中、勉強時間の確保に努めました。平日は午前0時まで勉強することを心掛け、休日は集中的に取り組みました。合格できずにまた来年勉強することは避けなかったのも、「2回目はない。今回限り」とのプレッシャーを自分に与え、モチベーションを維持しました。	公表されている過去問のテーマを全てリストアップし、関連テーマも加えたリストを作成し、各テーマについて様々な文献を調べて自分で模範解答を作成しました。次に、ネットで公開されている第二次試験様式 of 原稿用紙を印刷し、規定枚数で解答を書き込んでいく練習を重ねました。本番では、「現状」、「問題点・課題」、「解決の方向性」、「具体策」、「リスク」の論理展開で、明快な記述を心掛けました。 口頭試験対策では、知り合いの先輩技術士の方が口頭試験の経験をまとめられたレポートや日本技術士会主催の二次試験対策講義の資料を活用し、「業務経歴」、「業務の詳細」、「第二次試験問題解答内容」、「技術士法」、「技術士プロフェッション宣言」、「技術士倫理綱領」を再確認して本番に臨みました。	技術士合格は、自分で調べる前に知り合いの技術士の方から知らせて頂きました。朝一番で官報をチェックして下さり、応援して下さいましたことに感謝し嬉しく思いました。これでようやく技術士の仲間入りができるという実感が込み上げました。技術士として社会的責務を果たすべく、公益確保、資質向上を念頭に置いて、業務を鋭意遂行していくと共に、日本技術士会の活動に積極的に関わっていきたく考えています。
上木 隆司	資源循環及び環境	2008年	試験勉強は、通勤電車中(居眠りせず集中を保つため、出来るだけ座らず立ったまま)及び土日の空いた在宅時間を当てました。 自宅では市販の過去問題集や学生時代のテキストを基に要点を洗い出し、設問・回答集を手書きで作成し、それを通勤電車中で再読・再確認しました。	鉱害対策技術(閉山後の鉱廃水処理不要となるように採掘空洞を充填する技術開発)は海外における新規鉱山開発にも活用可能との信念を有し、その重要性を論文のテーマとしました。面接は考えられる質問を列挙し最善の返答を用意しました。	技術士資格を取得後は、技術者として技術的課題に妥協せず正面から相対する姿勢を保てる様になりました。 名刺交換時に技術士同志である場合、他分野に拘わらず互いに親近感を抱き打ち解けて話を深掘り出来ました。 定年退職後、技術士事務所を立上げて以降、他部門主催の関連CPD活動にも参加できるメリット大と感じます。

※投稿者募集中

※こちらもご参考ください。『修習ガイダンス2021 パネル討論～全ての技術者を技術士に、そして技術士であり続けるために～』